

平成 22 年 7 月 29 日

各 位

株式会社 USEN
代表取締役社長 宇野康秀

「業績予想の修正に関するお知らせ」についての補足説明

当社グループは、景気低迷に伴う人材関連事業の採用抑制、業務店市場の投資抑制並びに個人消費の低迷等を受け、一昨年来、多額の赤字を計上し業績悪化を招いておりましたが、その中でキャッシュ・フローを安定的に生み続けられる事業構造への転換に向け、事業の選択と集中のために「THE NEXT PROJECT」を策定し実施してまいりました。

主な施策としては、不採算事業の撤退、非中核事業の売却および早期退職制度の実施、人員再配置の実施に伴う人件費削減、本社等の事業所縮小等の大胆なコスト削減を実施し、一定の成果を上げております。また同時に、純資産の毀損を受けた資本政策の実施、多額の有利子負債の圧縮を進めることにより財務体質の改善に努めてまいりました。具体的施策および成果としては以下のとおりです。

- ・不採算事業の撤退：映像事業の撤退、売却（映画関連事業、広告関連事業等）
- ・非中核事業の売却：カラオケ事業、人材関連事業、有料コンテンツ配信事業等
- ・コスト削減、効率化：人員削減(45 期末 8,238 人⇒46 期末 3,550 人予定)、報酬カット、本社等事業所統廃合、オペレーションコストの見直し等
- ・有利子負債の削減：45 期末 1,370 億⇒46 期末 約 634 億(前期比▲53%圧縮)

本日付公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」、「特別利益および特別損失の計上に関するお知らせ」に記載のとおり、「THE NEXT PROJECT」は一定の成果を上げ、子会社株式売却による特別利益の計上、事業の減損損失関連、本社等事業所移転、制度会計基準の前倒し適用による特別損失の計上により、来期以降は、通期ベースで最終損益の黒字化を確保し、かつ金融取引の安定化も見込まれるところまで回復しております。

今後は、当社グループの放送・業務店事業に特化し、市場の優位性を生かした既存商材の拡販および新商材の投入、お客様のニーズ合わせたサービスを常に提供できる企画力のある企業へと変革し、営業収益確保、継続的な財務基盤構築、経営効率を弱めること無く、強固な事業基盤を築いてまいります。

引き続き、当社グループへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、今後の施策等については新事業年度(9月以降)に確定次第お知らせいたします。

以上

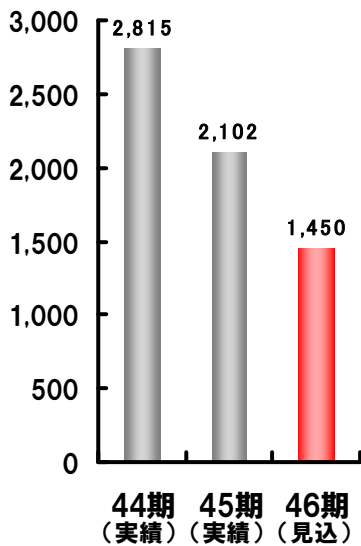
補足資料

●46期通期見込と3ヶ年比較

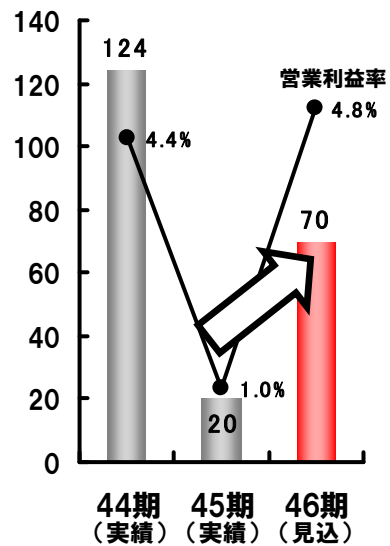
- ・不採算事業の撤退・コスト削減により、売上は減少しているものの確実に利益の出る体質へと変革
- ・資産売却・連結範囲の変更により、大幅な負債の圧縮を実現

【単位：億円】

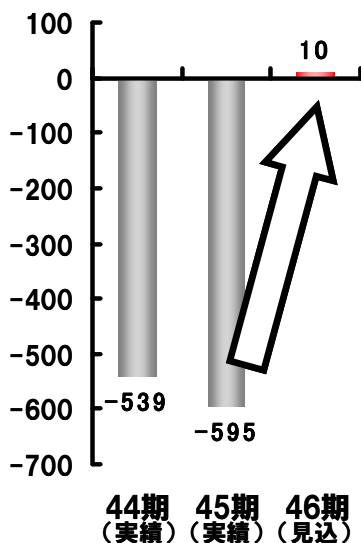
売上高



営業利益



当期純利益



有利子負債

